

モデル事業名	ことおこし・人おこし・物おこしによる江川の里づくり事業
活動団体名	江川地域づくり協議会
ホームページ	http:// (活動団体のHPのアドレス)
所属/ 担当者名	佐用町役場災害復興対策室 久保正彦
連絡先	0790-82-2460、kubo-m@town.sayo.hyogo.jp
活動地域	ひょうごけん きょうぐんさようちよう えかわちいき 兵庫県・佐用郡佐用町・江川地域

### ● 活動地域の概要

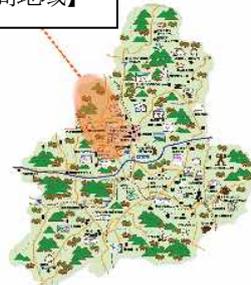
- 兵庫県佐用町の西部に位置し、岡山県に隣接している。江川地域には11集落あり、町内のなかでも少子高齢化が進んだ地域である。地域内高齢化率は36.5%(H20.3月末)となっており、地域内でもっとも高齢化率が高い乙大木谷集落は60.5%(H21.3月末)である。少子高齢化による地域の活力低下が大きな課題になり、耕作放棄田の増加や山間地の荒廃が進んでいる。
- 11集落の世帯数、人口、高齢化率の状況  
地域内の各集落の状況は、豊福集落 72世帯 188人(高齢化率36.7%)、平谷集落 32世帯 94人(31.9%)、仁方集落 46世帯 135人(35.6%)、福沢集落 86世帯 242人(33.5%)、西河内集落 23世帯 61人(32.8%)、甲大木谷 39世帯 133人(36.1%)、乙大木谷 19世帯 43人(60.5%)、淀 31世帯 89人(51.7%)、末包 27世帯 79人(36.7%)、東中山 15世帯 59人(37.3%)、大島 45世帯 152人(30.3%)となっている。
- 地域内の定期バス路線も平成21年10月末で休止される状況で、通院、通学や買い物など日常生活に影響がでてきている。
- 地域内に1校ある江川小学校も児童数が減少しており平成20年度入学者は2名、平成21年度入学者が6名で複式学級が導入された。
- 地域内に産業はほとんどなく、祖先から受け継いだ田畑や山林を兼業で守っている状況である。



【兵庫県における位置図】



【耕作放棄が進む中山間地域】



【佐用町における位置図】



地域内にある農村景観百選の棚田

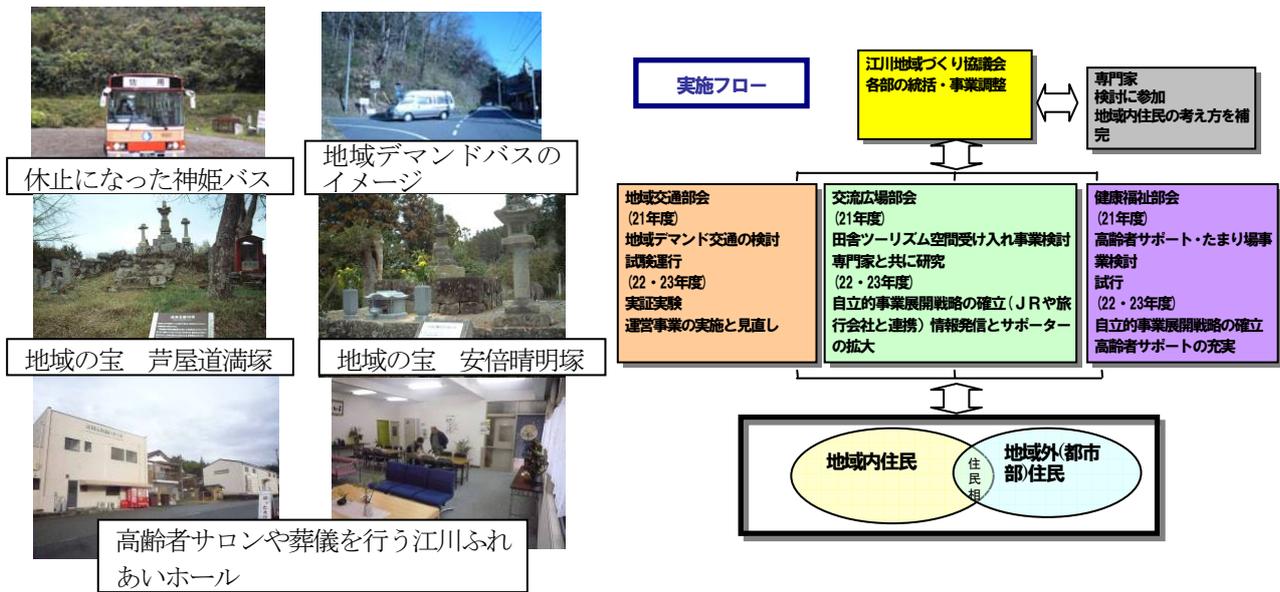
### ● 活動地域の課題

- ① 地域内の435世帯中、一人暮らし老人世帯78世帯、二人暮らし高齢者世帯78世帯と高齢者世帯が35%以上となっており、集落コミュニティの維持と管理が難しくなっているため、地域コミュニティで行う生活改善事業(老人見守り活動、葬儀、その他事業)への取り組みが課題となっている。
- ② 耕作放棄地がおおむね4割程度と進行中で、山地の荒廃も進んでおり、その対策が課題である。
- ③ 地域内を走っていた神姫バスがH21年11月から休止され、それにかわる地域の足の確保が課題となっている。
- ④ 地域内の資源(自然食材や道満塚や清明塚などの歴史資産)が過疎化と共に埋もれつつあり、地域資源伝承化と発信が課題である。

### ● 活動の内容

#### ・平成21年度

- ① 地域デマンド交通の運営検討と試験(実証)運行 - 3月に試験運行を実施予定
- ② 田舎ツーリズム受け入れ空間づくり事業 - 道満塚・清明塚の紹介映像を作成するとともに、山野草ハイキングを実施し、地域資源の発掘を行った。
- ③ 地域で行う高齢者サポート・たまり場事業 - 江川ふれあいホールを利用して葬儀サポートを実施すると共に高齢者サロン(ほっとえかわ喫茶室)を実施している。



● **活動の成果**

● **平成21年度**

- ① 地域デマンド交通の運営検討と試験(実証)運行 — 運営検討を進める中で地域デマンド交通の試験運行実施(予定)することになった。
- ② 田舎ツーリズム受け入れ空間づくり事業 — 道満塚・清明塚、山野草などの地域資源を認識できた。
- ③ 地域で行う高齢者サポート・たまり場事業 — 江川ふれあいホールを利用して葬儀サポートを3回実施すると共に高齢者サロン(ほっとえかわ喫茶室)を開始した。



交通問題ワークショップ



交通会議の様子



江川の宝を活かした里づくり講演会&シンポジウムの様子



山野草・薬草調査ハイキング&ワーキングショップの様子



高齢者サロンの様子



● **今後の課題及び展望**

・課題

平成21年度で地域の機運が盛り上がり、事業検討が深まってきた。地域交通の実施については、3月1ヶ月間で試験運行を行い、平成22年度中での実証運行を見込んでいる。田舎ツーリズム空間受け入れ事業では、地域内にある道満塚や清明塚の歴史的価値を認識し、山野草と絡めてハイキングマップを作成し実証ツーリズムの実施をするための受け入れのための素地を築いてきた。江川ふれあいホールを利用した葬儀や高齢者サロンでは、すでに活用を始めたところである。平成22年度は3ヵ年事業の2年目となり、各事業について実践を行い継続性を持って取り組むための大事な年となる。自立して行うには、まだ費用面での不安があるため、平成22年度で、ある程度、費用が確保できるようにすることが課題となる。また取り組みのためには、人材の育成が必要のため、長期的視野をもって人材研修を進めなければならない。これらの事業で地域が自立した活動を行うことで、地域コミュニティのますますのつながりと交流人口の増加により、さびれた地域に賑わいが戻ることを期待している。また佐用町全体の活性化につながると信じて事業を推進していきたい。

・展望

- ① 今後は姫路と鳥取を結ぶ中国横断自動車道姫路鳥取線(姫鳥線/2012年全線開通予定)の開通を鑑み、これにより「単なる通過ポイント」のひとつとなってしまいう危惧を抱く兵庫県佐用町、「スーパーはくと」の全便乗り入れを希望する、鳥取県倉吉市などが「連携」して、智頭急行、JR西日本の利用客の増加と、魅力向上を目指す企画(地域資源である道満塚や清明塚を活用した陰陽師の里ツアーなど)を提案するなど、他地域とネットワークして事業展開を検討する。また地域内に自生する山野草に着目してハイキングルートを設定し、地域交流人口の増加を目指す。(ツーリズムの開発)。
- ② 地域デマンド交通に取り組むことにより、佐用商店街などと連携を図り買い物難民対策を実施すると共に、毎日、通院できる環境を整える。(デマンド交通の実施)
- ③ 生活支援サポートとして葬儀や高齢者サポートを実施しているが、ツーリズムや地域交通の拠点施設として江川ふれあいホールを活用するなど、さらなる事業の展開を図る。(山村生活サポート事業)